

リンデロン注 2mg (0.4%) リンデロン注 4mg (0.4%)

【この薬は？】

販売名	リンデロン注 2mg (0.4%) Rinderon for Injection 2mg (0.4%)	リンデロン注 4mg (0.4%) Rinderon for Injection 4mg (0.4%)
一般名	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム Betamethasone Sodium Phosphate	
含有量	1管 (0.5mL) 中 2.65mg (ベタメタゾンとして 2mg に相当)	1管 (1mL) 中 5.3mg (ベタメタゾンとして 4mg に相当)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、合成糖質副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、炎症やアレルギー症状を改善したり、免疫を抑制するなどさまざまな働きがあり、多くの病気に用いられます。ただし、病気の原因そのものを治す薬ではありません。
- ・次の病気の人に処方されます。

☆印の付されている投与法は以下のような条件でのみ使用できる。

（その事由がなくなった場合は、速やかに他の投与法に切り替えること。）

1. 静脈内注射及び点滴静脈内注射：経口投与不能時、緊急時及び筋肉内注射不適時
2. 筋肉内注射：経口投与不能時

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
1. 内科・小児科領域				
(1) 内分泌疾患 慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性）			○	
急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ）	○	○	○	
副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症			○*	
甲状腺中毒症〔甲状腺（中毒性）クリーゼ〕	○	○	○*	
(2) リウマチ疾患 関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病を含む）			○	関節腔内注射
リウマチ熱（リウマチ性心炎を含む）	○*	○*	○	
リウマチ性多発筋痛			○	
(3) 膠原病 エリテマトーデス（全身性及び慢性円板状），全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症を含む），多発性筋炎（皮膚筋炎）	○*	○*	○	
強皮症			○*	
(4) 腎疾患 ネフローゼ及びネフローゼ症候群	○*	○*	○*	
(5) 心疾患 うっ血性心不全	○*	○*	○*	
(6) アレルギー性疾患 気管支喘息（ただし，筋肉内注射は他の投与方法では不適當な場合に限る）	○	○	○	ネブライザー
喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎を含む）			○*	ネブライザー
喘息発作重積状態，アナフィラキシーショック	○	○		
薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹を含む）	○*	○*	○*	
血清病	○	○	○*	
(7) 重症感染症 重症感染症（化学療法と併用する）	○	○	○*	

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
(8) 血液疾患 溶血性貧血（免疫性又は免疫性機序の疑われるもの），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性及び血小板非減少性），再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因	○	○	○★	
髄膜白血病				脊髄腔内注入
(9) 消化器疾患 限局性腸炎，潰瘍性大腸炎	○★	○★	○★	注腸
(10) 重症消耗性疾患 重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルーを含む）	○★	○★	○★	
(11) 肝疾患 劇症肝炎（臨床的に重症とみなされるものを含む）	○	○	○★	
胆汁うっ滞型急性肝炎		○★	○★	
肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの）			○★	
(12) 肺疾患 びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）	○★	○★		ネブライザー
(13) 結核性疾患（抗結核剤と併用する） 結核性髄膜炎				脊髄腔内注入
結核性胸膜炎				胸腔内注入
(14) 神経疾患 脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎を含む）（ただし，一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ，かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること），重症筋無力症，多発性硬化症（視束脊髄炎を含む）	○	○	○★	脊髄腔内注入
末梢神経炎（ギランバレー症候群を含む）	○★	○★	○★	脊髄腔内注入
小舞蹈病，顔面神経麻痺，脊髄蜘蛛膜炎			○★	

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
(15) 悪性腫瘍 悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症）及び類似疾患（近縁疾患）	○	○	○☆	脊髄腔内注入
好酸性肉芽腫	○	○	○☆	
乳癌の再発転移			○☆	
(16) その他の内科的疾患 特発性低血糖症	○	○	○☆	
原因不明の発熱			○☆	
2. 外科領域 副腎摘除	○	○	○	
臓器・組織移植，副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒（重症の虫さされを含む）			○☆	
侵襲後肺水腫	○			ネブライザー
外科的ショック及び外科的ショック様状態，脳浮腫，輸血による副作用，気管支痙攣（術中）	○			
3. 整形外科領域 強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）			○	
強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎，変形性関節症（炎症症状がはっきり認められる場合），外傷後関節炎，非感染性慢性関節炎，痛風性関節炎				関節腔内注射
関節周囲炎（非感染性のものに限る），腱周囲炎（非感染性のものに限る）				軟組織内注射 腱鞘内注射 滑液嚢内注入
腱炎（非感染性のものに限る）				軟組織内注射 腱鞘内注射
腱鞘炎（非感染性のものに限る）				腱鞘内注射
滑液包炎（非感染性のものに限る）				滑液嚢内注入

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
4. 産婦人科領域 卵管閉塞症（不妊症）に対する通水療法				卵管腔内注入
卵管整形術後の癒着防止			○☆	卵管腔内注入
副腎皮質機能障害による排卵障害			○☆	
早産が予期される場合における，母体投与による胎児肺成熟を介した新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制			○	
5. 泌尿器科領域 前立腺癌（他の療法が無効な場合），陰茎硬結			○☆	

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
<p>6. 皮膚科領域</p> <p>△印の付されている効能・効果に対しては、外用剤を用いても効果が不十分な場合あるいは十分な効果を期待し得ないと推定される場合のみ用いること</p> <p>△湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ピダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部あるいは肛門湿疹，耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（ただし，重症例以外は極力投与しないこと）</p> <p>△痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹を含む）（ただし，重症例に限る。また，固定蕁麻疹は局注が望ましい）</p> <p>△類乾癬（重症例に限る），△掌蹠膿疱症（重症例に限る），△毛孔性紅色皰癬疹（重症例に限る），成年性浮腫性硬化症，紅斑症〔△多形滲出性紅斑（重症例に限る），結節性紅斑〕，レイノー病，先天性表皮水疱症，帯状疱疹（重症例に限る），顔面播種状粟粒性狼瘡（重症例に限る），潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ</p>			○*	

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
蕁麻疹（慢性例を除く）（重症例に限る），△乾癬及び類症〔尋常性乾癬（重症例），関節症性乾癬，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，IgA血管炎（重症例に限る），ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群〔開口部びらん性外皮膚症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない場合），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear-Usher症候群，増殖性天疱瘡），デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹を含む），△紅皮症（ヘブラ紅色剝離疹を含む）		○*	○*	
7. 眼科領域 内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎症性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺）	○*		○*	結膜下注射 球後注射 点眼
外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適當又は不十分な場合（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎）	○*		○*	結膜下注射 球後注射
眼科領域の術後炎症	○*		○*	結膜下注射 点眼
8. 耳鼻咽喉科領域 急性・慢性中耳炎	○*	○*	○*	中耳腔内注入
滲出性中耳炎・耳管狭窄症	○*	○*	○*	中耳腔内注入 耳管内注入
メニエル病及びメニエル症候群，急性感音性難聴，口腔外科領域手術後の後療法	○	○	○	

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
血管運動(神経)性鼻炎, アレルギー性鼻炎, 花粉症(枯草熱)			○	ネブライザー 鼻腔内注入 鼻甲介内注射
副鼻腔炎・鼻茸			○	ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻茸内注射
進行性壊疽性鼻炎	○	○	○	ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 喉頭・気管注入
喉頭炎・喉頭浮腫	○	○	○	ネブライザー 喉頭・気管注入
喉頭ポリープ・結節	○ [☆]	○ [☆]	○ [☆]	ネブライザー 喉頭・気管注入
食道の炎症(腐蝕性食道炎, 直達鏡使用後)及び食道拡張術後	○	○	○	ネブライザー 食道注入

効能・効果	静脈内注射	点滴静脈内注射	筋肉内注射	その他の用法
耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法	○	○	○	軟組織内注射 ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻甲介内注射 喉頭・気管注入 中耳腔内注入 食道注入
難治性口内炎及び舌炎（局所療法で治癒しないもの）				軟組織内注射
嗅覚障害	○★	○★	○★	ネブライザー 鼻腔内注入
急性・慢性（反復性）唾液腺炎	○★	○★	○★	唾液腺管内注入

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人または次の部位に、この薬を使用することはできません。

- ・過去にリンデロン注に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・感染症にかかっている関節腔内、滑液嚢内、腱鞘内または腱周囲
- ・動揺関節（関節が不安定な状態）の関節腔内
- ・デスモプレシン酢酸塩水和物（ミニリンメルト）を夜間多尿による夜間頻尿に使用している男性

○次の方は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・感染症にかかっている人
- ・全身の真菌症にかかっている人
- ・消化性潰瘍のある人
- ・精神病の人
- ・結核にかかっている人
- ・単純疱疹性角膜炎の人

- ・後囊白内障の人
- ・緑内障の人
- ・高血圧の人
- ・電解質異常のある人
- ・血栓症の人
- ・最近、内臓の手術を受けた人
- ・急性心筋梗塞を起こした人
- ・眼科で使用する場合、ウイルス性結膜・角膜疾患、結核性眼疾患、真菌性眼疾患および急性化膿性眼疾患のある人
- ・糖尿病の人
- ・骨粗しょう症の人
- ・甲状腺機能が低下している人
- ・脂肪肝の人
- ・脂肪塞栓症の人
- ・重症筋無力症の人
- ・遺伝性果糖不耐症の人
- ・B型肝炎ウイルスに感染している人や、過去にB型肝炎ウイルスに感染したことのある人
- ・褐色細胞腫またはパラガングリオーマのある人、およびその疑いのある人
- ・腎不全の人
- ・肝硬変の人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [デスモプレシン酢酸塩水和物 (ミニリンメルト) (男性における夜間多尿による夜間頻尿に使用している場合)] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量と回数は、あなたの年齢や症状などにあわせて医師が決めます。

通常*、成人の使用量、使用量および回数は、次のとおりです。

使用方法	使用量および回数
静脈内注射	ベタメタゾンとして1回2～8mgを3～6時間ごとに静脈内に注射します。
点滴静脈内注射	ベタメタゾンとして1回2～10mgを1日1～2回点滴で静脈内に注射します。
筋肉内注射	ベタメタゾンとして1回2～8mgを3～6時間ごとに筋肉内に注射します。
	[早産が予期される妊娠34週までの妊婦に対して、新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制に使用する場合] ベタメタゾンとして1回12mgを24時間ごとに計2回、筋肉内に注射します。

使用方法	使用量および回数
関節腔内注射	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを関節腔内に注射します。使用間隔は2週間以上です。
軟組織内注射	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを軟組織内に注射します。使用間隔は2週間以上です。
腱鞘内注射	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを腱鞘内に注射します。使用間隔は2週間以上です。
滑液嚢内注入	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを滑液嚢内に注入します。使用間隔は2週間以上です。
脊髓腔内注入	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを週1～3回脊髓腔内に注入します。
胸腔内注入	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを週1～3回胸腔内に注入します。
卵管腔内注入	ベタメタゾンとして1回0.4～1 mgを卵管腔内に注入します。
注腸	ベタメタゾンとして1回0.4～6 mgを直腸内に注入します。
結膜下注射	ベタメタゾンとして1回0.4～2 mgを結膜下に注射します。
球後注射	ベタメタゾンとして1回0.8～4 mgを球後に注射します。
点眼	ベタメタゾンとして1回0.25～1 mg/mL 溶液1～2滴を1日3～8回点眼します。
ネブライザー	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回ネブライザーを使用します。
鼻腔内注入	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回鼻腔内に注入します。
副鼻腔内注入	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回副鼻腔内に注入します。
鼻甲介内注射	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを鼻甲介内に注射します。
鼻茸内注射	ベタメタゾンとして1回1～5 mgを鼻茸内に注射します。
喉頭・気管注入	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回喉頭あるいは気管に注入します。
中耳腔内注入	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回中耳腔内に注入します。
耳管内注入	ベタメタゾンとして1回0.1～2 mgを1日1～3回耳管内に注入します。
食道注入	ベタメタゾンとして1回1～2 mgを食道に注入します。
唾液腺管内注入	ベタメタゾンとして1回0.5～1 mgを唾液腺管内に注入します。

* 眼科で使用する場合、通常2週間以上の長期に使用することはありません。医師の指示どおりに使用してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬の使用により、誘発感染症、続発性副腎皮質機能不全、消化性潰瘍、糖尿病、精神障害などの重篤な副作用があらわれることがあるので、注意してください。
- ・この薬を使用する前に水痘（みずぼうそう）または麻疹（はしか）にかかったことがあるか、予防接種を受けたことがあるかが確認されます。また、水痘または麻疹に感染すると致命的な経過をたどることがあります。感染が疑われる場合はただちに受診してください。水痘または麻疹にかかったことがあったり、予防接種を受けたことがある人でも感染することがあるので、気をつけてください。
- ・この薬を連用した後、急に使用を中止すると、発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショックなどがあらわれることがあります。中止する場合は徐々に減量されます。医師の指示どおりに使用してください。
- ・B型肝炎ウイルスキャリアの人は、この薬の使用中和使用終了後に継続して血液検査などが行われます。
- ・この薬を長期あるいは大量に使用している間、または使用中止後6ヵ月以内は、免疫機能が低下していることがありますので、生ワクチン〔麻疹、風疹（ふうしん）、おたふく風邪、水痘、BCG、ポリオ（小児まひ）など〕の接種を受けないでください。
- ・この薬を連用すると、眼圧上昇、緑内障、後嚢白内障があらわれることがあるので、定期的に検査が行われることがあります。
- ・褐色細胞腫があることを認識していなかった状態でベタメタゾン製剤（注射剤）を使用した際に、褐色細胞腫クリーゼが発現したとの報告があります。この薬の使用後に著しい血圧上昇、頭痛、動悸（どうき）などの症状があらわれた場合には、速やかに医師に相談してください。
- ・強皮症の人は、この薬の使用で強皮症腎クリーゼがあらわれやすくなるとの報告がありますので、使用中は血圧や腎機能検査が行われます。頭痛、むかむかする、嘔吐（おうと）、視力低下、けいれんなどの症状があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、意識の消失、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
アナフィラキシー	ふらつき、喉のかゆみ、動悸、息苦しい、全身のかゆみ、じんま疹
誘発感染症、感染症の増悪 ゆうはつかんせんしょう、かんせんしょう のぞうあく	発熱、寒気、体がだるい 〔B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎としてあらわれる場合〕 体がだるい、吐き気、嘔吐、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる
続発性副腎皮質機能不全 ぞくはつせいふくじんひしつきのうふぜん	体がだるい、発熱、冷汗が出る、意識の低下、意識の消失、顔面蒼白、嘔吐、食欲不振、手足が冷たくなる
糖尿病 とうりょうびょう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
消化管潰瘍 しょうかかんかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
消化管穿孔 しょうかかんせんこう	寒気、発熱、ふらつき、意識の低下、吐き気、嘔吐、息切れ、激しい腹痛
臍炎 すいえん	体重が減る、吐き気、嘔吐、喉が渇く、強い腹痛、お腹が張る、背中痛み、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る、尿量が増える
精神変調 せいしんへんちょう	普段とは違う精神状態、妄想、興奮抑うつ、幻覚
うつ状態 うつじょうたい	体がだるい、気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、食欲不振
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
骨粗鬆症 こつそしょうしょう	骨折しやすい、背が低くなった、腰・背中の痛み、背中が丸くなった、手足の痛み



重大な副作用	主な自覚症状
大腿骨及び上腕骨等の骨頭 無菌性壊死 だいたいこつおよびじょうわんこつなどの こつとうむきんせいえし	脚の付け根の痛み、膝からももへの痛み、腕の 付け根の痛み
ミオパチー	筋肉の痛み、筋肉のこわばり、筋力の低下、筋 萎縮
緑内障 りよくないしょう	目のかすみ、視力の低下、視野が欠けて狭くなる
後嚢白内障 こうのうはくないしょう	視力の低下、かすんで見える、まぶしい、眼鏡 で視力が出ない
血栓症 けっせんしょう	脱力、まひ、激しい頭痛、めまい、失神、目の かすみ、舌のもつれ、しゃべりにくい、鋭い胸 の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような 胸の痛み、ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のし びれ
喘息発作の増悪 ぜんそくほっさのぞうあく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がす る、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、寒気、体がだるい、体重が減 る、顔や手足の筋肉がぴくつく、骨折しやすい、背が低くなっ た、脱力、まひ
頭部	めまい、意識の消失、意識の低下、普段とは違う精神状態、 妄想、興奮抑うつ、気分がゆううつになる、悲観的になる、 思考力の低下、不眠、一時的にボーっとする、激しい頭痛、 失神
顔面	顔面蒼白
眼	幻覚、目のかすみ、視力の低下、視野が欠けて狭くなる、か すんで見える、まぶしい、眼鏡で視力が出ない、白目が黄色 くなる
口や喉	喉のかゆみ、嘔吐、喉が渇く、水を多く飲む、吐き気、吐い た物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、舌のもつれ、 しゃべりにくい
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押 しつぶされるような胸の痛み、息をするときゼーゼー、ヒュー ヒューと音がする
腹部	食欲不振、腹痛、胃がむかむかする、激しい腹痛、強い腹痛、 お腹が張る
背中	背中での痛み、腰・背中での痛み、背中が丸くなった
手・足	手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、 手足の痛み、脚の付け根の痛み、膝からももへの痛み、腕の

部位	自覚症状
	付け根の痛み、ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる
筋肉	筋肉の痛み、筋肉のこわばり、筋力の低下、筋萎縮
便	黒い便が出る、油っぽい下痢が出る
尿	尿量が増える

【この薬の形は？】

販売名	リンデロン注 2mg (0.4%)	リンデロン注 4mg (0.4%)
性状	無色澄明の液 (注射剤)	
形状	アンプル	アンプル
		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	リンデロン注 2mg (0.4%)	リンデロン注 4mg (0.4%)
有効成分	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	
添加剤	D-ソルビトール、乾燥亜硫酸ナトリウム、リン酸水素ナトリウム水和物、リン酸二水素ナトリウム水和物、注射用水	

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：シオノギファーマ株式会社

販売会社：塩野義製薬株式会社 (<http://www.shionogi.co.jp/>)
 医薬情報センター
 電話：0120-501-074
 受付時間：9時～17時（土、日、祝日を除く）